

# 大阪市立大学 学術機関リポジトリの構築

## 電子図書館から機関リポジトリへ

### 本学電子図書館の歴史

- 平成8年（1996年）から開始
- コンテンツは紀要掲載論文と古文書と貴重書
- システムの変遷
  - 紀要論文データベース
    - 平成8年(1996年)～平成13年(2001年)  
学術情報総合センター専任教員の開発
    - 平成13年(2001年)～平成18年(2006年)  
図書システム(iLiswave)と同じハード上にiLisSurfで構築
    - 平成19年(2007年)～現在  
図書システムとは別のハード上にInfoLibで構築

- 貴重図書データベースシステム検索システム  
平成8年(1996年)～平成13年(2001年)  
学術情報総合センター専任教員の開発
- マイクロ画像データベース(古文書、貴重書)  
平成9年(1997年)～現在  
マイクロフィルムをオンデマンドでスキャンしてインターネットへ送付
- 古文書データベースシステム  
平成17年(2005年)～現在  
InfoLibで構築、Djvuを使用、紀要論文データベースとは別のハード

## 紀要論文の著作権処理

- 学術情報総合センターの完成
  - 大学からの情報発信
  - 附属図書館運営委員会で以下を決定
    - 各学部1誌を提供
    - 各誌の執筆規程でインターネットでの提供を宣言する
- しかし、ほとんど暗黙の承認のもとでタイトル数が増えていった。

# 既存のデータベースの機関リポジトリへの転換

## ○既にあるコンテンツの活用

### ■ 紀要論文

データの点検、メタデータの修正→(CSI経費)

### ■ 古文書、貴重書

## ○著作権処理の明確化

### ■ ガイドラインの制定

紀要論文データベースへの登録には規程がなかった。新たに制定することになり、次々とでる質問と希望

- 既存のコンテンツの著作権包括許諾のみなし規程が認められず、包括許諾を新たにとることになった。そのため、紀要論文データベースシステムと機関リポジトリシステムを平行運用

## ○システムの転換

### ■ 当初....古文書データベースのリプレイス

### ■ 計画変更....紀要論文データベース内に構築→(CSI経費)

(コストが安く、データ移行のチェックが不要)

# 機関リポジトリの課題

- 紀要以外の論文の収集
  - 学内への呼びかけ
- 未登録の学内刊行物の登録
  - 教員への周知（論文以外も可）
- 学術情報総合センター（図書館）既蔵の学位論文と科研報告書の登録
  - 学位論文(NDLの事業との調整)
- 次期リポジトリシステムの検討
  - 事業継続のための体制づくり
- 公開を希望しない論文のデータ管理